

13日 土曜

マルコ

5:21 イエスが再び舟で向こう岸に渡られると、大勢の群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

5:22 すると、会堂司の一人でヤイロという人が来て、イエスを見るとその足もとにひれ伏して、

5:23 こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」

5:24 そこで、イエスはヤイロと一緒に行かれた。すると大勢の群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。

5:25 そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人がいた。

5:26 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。

5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。

5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったの

か』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおのきなながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

5:35 イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩わすことがあるでしょうか。」

5:36 イエスはその話をそばで聞き、会堂司に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」

5:37 イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分と一緒に行くのをお許しにならなかった。

5:38 彼らは会堂司の家に着いた。イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているのを見て、

5:39 中に入って、彼らにこう言われた。「どうして取り乱したり、泣いたりしているのですか。その子は死んだわけではありません。眠っているのです。」

5:40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子どもの父と母と、ご自分の供の者たちだけを連れて、その子のいるところに入って行かれた。

5:41 そして、子どもの手を取って言われた。「タリタ、クム。」訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。



5:42 すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。

5:43 イエスは、このことをだれにも知らせないようにと厳しくお命じになり、また、少女に食べ物を与えるように言われた。

癒しのために信仰を働かせた人たちのことが書かれています。共通なのは、どれだけ祈ったかではなく、またどれだけレベルの高いことばで祈ったかでもなく、ただ主イエスの力を信じていたということです。ヤイロはイエス様の祈りを求め、女性はイエス様の着物に触りました。行動は違いますが、イエス様への期待は一緒です。

またこの女性はイエス様に「真実をすべて話した。」とあります。願いとともに心の悩みや痛みまでも、主に委ねて癒されたと思われれます。そのような祈りは幸いです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

